

対バルバドス国別開発協力量針

平成 28 年 9 月

1. 当該国・地域への開発協力のねらい

(1) カリコム（カリブ共同体¹）への開発協力のねらい

バルバドスを含むカリコム加盟諸国が位置するカリブ海地域には島嶼国が多く、ハリケーンや地震、津波などの自然災害が頻発する地域である点や、海洋生物資源の持続的利用を推進している点などで、我が国との共通性を有している。同地域の国々はいずれも、気候変動や上記のような自然災害に対する脆弱性を抱えていることに加え、人口・経済規模が小さく、農業、水産業、観光業など外的要因に影響されやすい産業が基盤となっている。こうしたカリブ海地域共通の課題克服のために、自然災害を克服してきた日本の経験・知見を共有し、我が国が側面支援を行うことは、各国の社会的安定及び地域全体の持続可能な成長の観点から重要である。

(2) バルバドスへの開発協力のねらい

バルバドスは、カリブ海の中で最も東に位置する国であり、他のカリブ諸国と異なり火山島ではなく主に珊瑚礁から成り立っている。バルバドスの主要産業の一つである観光業は、欧米諸国からの人気が高く主要な市場であるため、欧米の経済不況等の影響を受けやすい。また、大雨による洪水やハリケーンによる被害が頻繁に生じるなど、外的要因の影響を強く受ける経済構造であり、経済・社会発展にとって課題となっている。また、バルバドスは民主主義や法の支配等の基本的価値を我が国と共有しており、国際場裡においても我が国の立場を支持・理解している。カリコム加盟諸国は共通の投票行動を取ることが多く地域の協力を重視しており、バルバドスの経済・社会開発に向けた取組への支援は、二国間関係に加え、カリコム加盟諸国全体との関係の更なる強化に発展することが期待される。

2. 我が国のODAの基本方針（大目標）：脆弱性の克服（カリコム加盟諸国共通）

開発協力大綱において、一人当たり所得が一定の水準にあっても小島嶼国等の特別な脆弱性を抱える国々等に対しては、各国の開発ニーズの実態や負担能力に応じて必要な協力を行っていくこととしており、カリコム加盟諸国に対しては、2014年11月に開催された第4回日・カリコム外相会合において採択された日・カリコム共同閣僚声明に基づき、第一の柱「小島嶼開発途上国特有の脆弱性克服を含む持続的発展に向けた協力」に沿って、日本の技術や知見を活かした協力を展開する。OECD/DA

¹ カリコム（カリブ共同体）は、カリブ海諸国の経済統合、外交政策の調整、保健医療・教育等の協力促進を目的として1973年、CARIFTA（カリブ自由貿易連盟）を発展的に解消させて結成。事務局はガイアナのジョージタウンに所在。加盟国・地域は14 개국・1 地域。

Cの援助受取国・地域リストを卒業したバルバドスに対しても、支援の必要性に関する調査の実施結果を踏まえて、必要な協力を実施する。

3. 重点分野（中目標）：防災・環境

バルバドスでは、気候変動による影響やハリケーン、津波、地震等の自然災害による被害への対処能力強化が喫緊の課題となっており、生物多様性にも配慮しつつ同分野の支援を実施する。また、エネルギー源の多くを輸入燃料に頼らざるを得ないことを背景に、再生可能エネルギーの導入及び省エネルギー推進が重要な課題となっており、技術協力を中心に同分野の支援を実施する。

4. 留意事項

廃棄物管理分野においては、観光業を主要産業とする小島嶼国にとり特に重要であり、バルバドスでは民間主導のリサイクルが推進されているが、廃棄物管理を所掌する行政部門の能力強化が依然として課題であることに留意する。

（了）

別紙： 事業展開計画